

謹賀新年

水土里ネット富山

平成28年元旦 富山県土地改良事業団体連合会



棚田から望む立山連峰 (富山市八尾町)

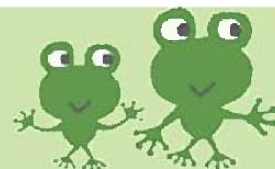
監事	監事	代表監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	専務理事	副会長	会長
津田修	上田英俊	木下俊男	岩田忠正	大井正樹	夏野修	中川忠昭	吉野勉	荻野幸和	石田博信	鹿熊正一	河合常則
(婦負郡藤ヶ池土地改良区理事長)	(入善土地改良区理事長)	(氷見市土地改良区理事長)	(城端土地改良区理事長)	(高岡市土地改良区理事長)	(砺波市長)	(常西用水土地改良区理事)	(射水半野土地改良区理事)	(黒部川左岸土地改良区理事)	(学識経験者)	(朝日町土地改良区理事長)	(学識経験者)

(他 職員一同)



水土里ネット富山

(富山県土地改良事業団体連合会)



CONTENTS

1	新年のご挨拶	
	富山県土地改良事業団体連合会長	河合 常則…………… 1
	全国水土里ネット会長	二階 俊博…………… 2
	全国水土里ネット会長会議顧問	進藤かねひこ…………… 3
	富山県知事	石井 隆一…………… 4
	富山県議会議長	横山 栄…………… 5
	北陸農政局長	小林 厚司…………… 6
	富山県農林水産部長	須沼 英俊…………… 7
	農村整備課長	大橋 雅樹…………… 8
	農村振興課長	飛世 隆一…………… 9
2	平成27年度 県土連理事会の開催……………	10
3	水土里探訪ウォーク in 桜ヶ池の開催……………	10
4	「元気とやま」むらづくり推進大会2015の開催……………	11
5	第38回全国土地改良大会（青森大会）……………	11
6	平成27年度換地関係異議紛争処理対策検討会（北陸ブロック）……………	12
7	平成27年度換地技術者育成・確保連絡会議（北陸・東海・近畿ブロック）……………	12
8	「平成27年 とやま水土里フォーラム」の開催……………	13
9	北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 農業農村整備事業に関する要請……………	14
10	平成27年度富山県建設優良工事（土地改良部門）の表彰……………	16
11	井田川水系土地改良区合併予備契約調印式……………	17
12	土地改良区の組織強化を目指し、各種研修会を開催……………	18
	①水土里ネット複式簿記研修会……………	18
	②平成27年度 技術力向上事業技術研修……………	18
	③ため池監視・管理体制強化技術研修会（ため池緊急防災体制整備促進事業）……………	19
13	式典……………	20
	①「小川用水発電所施設建設工事」起工式……………	20
	②「黒谷発電所」起工式……………	20
	③「舟倉用水通水200年」記念例大祭及び式典……………	20
	④「布施川用水発電所」起工式……………	21
	⑤「芹谷野発電所」起工式……………	21
	⑥「浦山新発電所（仮称）」起工式……………	21
	⑦「常東合口幹線発電所」起工式……………	22
14	<情報>地域と環境を保全するマイクロ発電水車「すいでん君」……………	23
15	<情報>富山県農業用水小水力利用推進協議会……………	24
16	<情報>非補助農業基盤整備資金のご案内……………	25
17	<お知らせ>今後の主な行事予定……………	25



新年のごあいさつ

富山県土地改良事業団体連合会
(水土里ネット富山)
会長 河合 常 則

新年明けましておめでとうございます。輝かしい平成28年の初春を迎え、会員ならびに関係皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃から農業農村整備の推進にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

農業農村は、安全・安心な食料の安定供給はもとより、豊かな自然環境や生物多様性の保全、農地の洪水防止効果などによる防災機能など、多面的な機能の発揮を通じて県土を保全し、県民の暮らしを支える重要な役割を果たしてまいりました。

また、我々土地改良関係者は受益農家の負担と地域住民の協力、行政の支援を得ながら農地や農業水利施設の整備を積極的に推進するとともに、施設の適切な維持管理に努めてきたところであります。

しかし、一方では、米価の低迷による農業所得の減少や農業者の高齢化の進行、農村の活力の低下といった問題が山積しています。これらの問題解決に向けた持続可能な強い農業の実現のためには、6次産業化の戦略的推進とともに大区画化や汎用化等の農地整備や、適宜適切な農業水利施設等の維持・更新のための土地改良事業が必要不可欠であります。

また、農林業の成長産業化を図っていくためには、担い手への農地の集積を進めるとともに生産コストの削減を図ることも必要であります。最も重要なことは中山間地域においては、生産性だけを追求するのではなく、生活圏として人が住み安心して農林業を営んでいける環境づくりを地域振興策として行っていくことが極めて重要なことだと考えております。

さらに、政府の掲げる地方創生に関しては、申すまでもなく農業は地域の根幹をなす重要な産業の一つであり、農業農村の振興は地方創生に無くてはならない大きな課題です。このため、骨太の方針や日本再興戦略に「土地改良事業の一層の推進」が謳われ、土地改良の重要性を再認識いただいているところであります。

安倍総理の言葉のとおり「農業は国の基」であり、豊かな国土や自然環境も、農業農村が健全であって初めて維持されるものであり、意欲ある生産者がこれからも安心して農業に取り組める、安定した農政を行うべきであります。

現在、土地改良予算に関しては平成27年度補正と平成28年度当初を合わせて、1200億円以上増額された予算が閣議決定されておりますが、「闘う土地改良」を掲げる我々の目標である大幅削減以前の平成21年度予算の水準にまで回復させ、事業を計画的、安定的に進めていくことが重要であります。このため、今回熱い志を持って立ち上がった土地改良代表（進藤かねひこ氏）の勝利に向けて全力で頑張っていく覚悟であります。

関係皆様には、今年はいこれまで以上のご支援とご協力をお願いいたしますとともに、本年が皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますように心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年に当たって

みどり
全国水土里ネット
会長 二階 俊博

平成28年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進にご尽力をいただいている皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年、当会の会長に就任しましてから、関係者の皆様のご支援を受けながら、これまで事業の推進に尽力して参りました。とりわけ、会長就任時には民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算を、まずは復活させようと、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。各都道府県連合会からは、財源不足による事業の停滞に対し、悲鳴が上がっておりましたし、一日も早く予算確保を訴える声が届いておりました。このため「闘う土地改良」を旗印に、真剣な取り組みを訴えて参りました。おかげさまで、昨年末には平成27年度補正予算と同28年度予算とで総額4,810億円を政府予算編成案において確保することができました。

私は、皆様の要望を実現するためには、いつまでも下を向いているのではなく、本会として具体的な行動を起こすことが重要である旨申し上げ、次期参議院選挙には候補者を打ち立てて、明確な意思を表明することが重要であると申しました。おかげさまで、農林水産省から進藤金日子君が現職課長を辞して立候補することとなりました。彼は秋田県の農村出身で、土地改良に熱い思いを持っており、是非、土地改良のために頑張りたいと積極的に活動してくれています。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

さらには、昨年TPP交渉が大筋合意されたことを受けて、「総合的なTPP関連政策大綱」が決定されましたが、私は農業農村の振興に、支障を来さないように努力をしていかなければならないと思っております。

我々水土里ネット関係者としましては、このような現状をしっかりと受け止め、積極的に役割を果たしていくことが重要と考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力も必要と考えます。幸いにして、農地を集積し、経営規模を拡大することにより、新たな農業経営を展開するべく全国各地で志の高い取り組みが見られるようになってきております。

土地改良は、農業農村の整備や振興を通じて国土を維持し、発展させることを目的としております。そのためには、自分達の生活は必ずや自らが守り発展させていくという気構えが不可欠です。それを、我々の先人達が時々の時代背景の中で繰り返し最大限努めてきたことだと思っております。現代に生きる我々が手をこまねていることは決して許されることではありません。私は全国の土地改良関係者の皆様の協力をいただきながら、ひき続き予算の獲得や参議院選挙の勝利に向け真剣に闘う決意を新たにいたしました。

本日、輝かしい年の初めに当たり、本年が全国の皆様にとってよき年でありますように、ご健勝とご発展を祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。



"闘う土地改良"の先頭に立って

みどり
全国水土里ネットワーク会長会議
顧問 進藤かねひこ

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、昨春、新しく全国土地改良事業団体連合会会長に就任された二階俊博先生が提唱された「闘う土地改良」に込められた真義に感銘し、また触発され、政治活動の途を志す決意を固め、昭和61年に入省以来、29年間勤めてきた農林水産省を昨年の6月、中山間地域振興課長を最後に退職しました。

その後、7月29日に都道府県土地改良事業団体連合会会長会議(全国水土里ネットワーク会長会議)顧問を仰せつかり、全国各地を回り、その実情を聞かせて頂きました。移動した距離は約30万km、日本の農業水路の総延長約40万km(地球10周分)の4分の3に達しました。全国を巡回する中で、我が国の国土には人間の体でいうと動脈と静脈にあたる農業用水路・排水路が隅々まで張り巡らされ、肉体にあたる450万haの農地と一体になって国民の食料を支えており、多面的機能の適切な発揮を通じて、まさに日本の国土を支えていることを改めて実感した次第です。

そして、様々な課題も聞かせて頂きました。農業・農村の現場で聞く声は本当に切実で、心に響きました。過去・現在・将来とも国民の食料を支える農地と水、それを可能としている土地改良は「日本の命綱」ではありますが、その命綱が切れそうになっていることに強い危機感を禁じ得ません。

全国各地を回り始めてから約4か月経た時点で、私なりに全国の声を集約し、全国水土里ネットワーク会長会議に報告しました。そして、その報告した内容を私に課せられた5つの使命として承り、その使命を果たすため全身全霊で取り組んでまいります。

1. 土地改良の予算確保に全力

国民の命とくらは農地と水が健全であってこそ守られているのです。しかしながら、そのために必要な「土地改良」の予算は大幅に不足しており、このままでは日本の農業と地域はその土台から崩れ、日本の未来は危ういものとなります。安全で安心な食料生産のためにも、必要な土地改良の予算確保に全力を尽くします。

2. 日本型直接支払制度の充実に全力

地下水かん養や洪水防止など農業が有する多面的機能の発揮を支える「多面的機能支払制度」や中山間地域の維持に重要な「中山間地域等直接支払制度」などについて、地域の皆さんの声を丁寧に汲み上げ、制度の充実に全力を尽くします。

3. 災害に強い農山漁村づくりに全力

近年、自然災害が急増し、しかも激しくなっています。日本の農山漁村には、地すべり地帯や急傾斜地帯が数多くあり、排水ポンプやため池、水路など、その多くの老朽化が進んでおり、これらの対策には一刻の猶予も許されません。迅速かつ的確な対策に全力を尽くします。

4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承に全力

山から海に至る日本の「郷(さと)」は、歴史と伝統文化に育まれた、まさに日本の宝です。しかし、それらの多くの宝が今、危機に瀕しています。農地と水、森林の保全を通じ、地方創生の土台である美しい農山漁村を、未来の子どもたちに引き継げるよう全力を尽くします。

5. 農業と農山漁村への国民の理解に全力

日本が持続的に成長していくためには、農山漁村が食と生活の拠点として健全に発展していくことが必要です。都市農業を含めた国内農業と農山漁村をもっともっと国民に身近なものとし、その振興を図るために、国民の理解が得られるよう全力を尽くします。

この「5つの全力」を通じて、「安全で安心な食」、「大切な農地と水」、「美しい農山漁村」、この3つを守り抜くことを約束します。

先程、「農業水路の4分の3を回った」と申し上げましたが、農業水路は単なる土木構造物でなく、農地を拓き水を引いた先人の辛苦の賜物であり、多くの関係する方々の思いが詰まった地域の文化財的なものでないかと感じています。今後は、農地や農業水路にこもる先人の不屈の魂に思いを馳せながら、更に各地域を毛細血管の部分まで含めて可能な限り訪れたいと思います。そして、富山県の取り組みも十分勉強させて頂きながら、農業・農村の現場と行政・国政の場とのキャッチボールを主導し、白らがそのボールとなって粘り強く両方の「場」を往復できるように、果敢な中にも謙虚に自己を研鑽し、更に幅広く深く政治活動を前に進める覚悟です。最後に、今年は、土地改良にとって剣ヶ峰と言ってよい程の大きな節目の年となります。私は、幅広い国民の皆さんのご理解と土地改良に関わる私たちの結束を源泉として、「闘う土地改良」の先頭に立って全力疾走することを改めてお誓いします。

本年が皆様お一人おひとりにとって良き年となることを祈念し、私の年頭のご挨拶と致します。



人が輝く「元気とやま」の創造をめざして

富山県知事 石 井 隆 一

明けましておめでとうございます。平成28年の初春を県民の皆様とともに寿ぎたいと存じます。

平成16年11月の知事就任以来、多くの県民の皆様のご支援とご支持をいただきながら、ふるさと富山県の発展と県民の皆様幸せのために邁進してまいりました。

私の変わらぬ目標は、県民の皆様一人ひとりが希望と誇りを持って、輝いて生きられる「元気な富山県」を創ることです。このため、タウンミーティングなどを通して幅広い県民の皆様のご意見をお聴きしながら、「活力」「未来」「安心」を柱とする基本政策と、重要政策「人づくり」の推進に積極的に取り組んでいるところです。

昨年3月14日、半世紀近い県民の悲願であった北陸新幹線がついに開業しました。新幹線の開業により、県内への流動人口の大幅な増加が続くなど、その効果が大きく現れています。

併せて、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ開催した第35回全国豊かな海づくり大会や、新幹線開業を記念し初めて開催した富山マラソン2015などの大イベントを成功裡に終え、本県の注目度が一段と高まっています。

地方創生・人口減少対策については、昨年10月に「とやま未来創生戦略」を策定するとともに、10年先、20年先、さらには30年先を見据えた「富山県経済・文化長期ビジョン」の策定に向け、県内外の有識者や将来を担う若い皆さんに議論いただいています。

また、本県の強みを活かした最先端ものづくりの強化や、観光振興、定住・半定住の促進など、産業経済や地域の活性化を図り、本県を大きく飛躍させる取組みが広がっています。

さらに、社会全体で子育てを支援する体制が整備されるとともに、教育・文化の振興等を通して、真の人間力を育む教育が展開されています。

安心して暮らせる地域づくりについては、医療・福祉の充実や、環境の保全、防災対策の拡充等が着実に図られています。

そして、経済・産業、教育・文化、医療・福祉などの幅広い分野における人材育成を図り、夢・情熱・志を持って、富山県の新たな未来を切り拓く「人づくり」が進展しています。

これらの成果をしっかりと持続させ、本県の新たな成長・飛躍につなげるためにも、本年は、北陸新幹線開業と国の地方創生戦略という二つの好機を最大限に活かし、「とやま新時代」にふさわしい、活力と魅力あふれるふるさととの創生に向けた取組みをさらに加速していかなければなりません。今後とも、県民の皆さんの知恵と力を結集して、人が輝く「元気とやま」の創造に全力を尽くしてまいります。

新年にあたり、県民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。



新年を迎えて

富山県議会議長 横山 栄

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい平成28年の新春を、皆様とともに寿ぎたいと存じます。

皆様には、日頃から本県の農業・農村整備に多大なご尽力をいただき、深く感謝を申し上げます。

さて、我が国の社会経済環境は、少子高齢化の進行と人口減少時代の到来、グローバル化の一層の進展など大きく変化しております。特に、去年は欧州の難民問題やパリ同時多発テロなどで国際情勢が緊迫化するとともに、国内においては、安全保障関連法の成立やTPP交渉の大筋合意など今後の日本にとって重要な決断がなされた一年でありました。

このような社会経済状況の中で、各自治体においては、自らの判断と責任において、個性豊かな地域社会づくりに積極的に取り組むことが求められております。このため本県では、県民が豊かさを実感でき、いきいきとした生活が営める元気な富山県を築くため、本県の有する豊かな可能性や魅力を存分に引き出す各種施策を展開しているところです。

また、去年は待望の北陸新幹線が開業し、全国から多くの方々が本県を訪れ、それに伴い、本県の「食」に対する注目度もますます大きくなっております。一方、TPP交渉の大筋合意がなされ、コメなど県内の農林水産業への影響が懸念されます。

県議会といたしましても、県政運営の両輪の一つとして、新幹線開業効果を持続・拡充する取り組みをはじめ、必要な公共事業予算の確保や安心して農林水産業を営める環境づくり等を積極的に支援するとともに、県民の皆様の声に真摯に耳を傾け、皆様に一層信頼され、期待される議会となるよう、最大限の努力をしまいる所存であります。

申すまでもなく、農業・農村は、安全で良質な食料の供給はもとより、県土の保全や環境の保全、文化の伝承など、多面的な役割を果たしております。特に、農業用水は、農業の生産基盤であるとともに、生活用水や消流雪・防災用水として、さらに、最近では発電資源として注目されております。

近年、農産物価格の低迷や担い手の高齢化など、農業・農村を取り巻く環境は大変厳しいものがありますが、富山県土地改良事業団体連合会におかれましては、これまで培われてきた優れた知恵と技術を活かされ、必ずや、個性豊かな魅力ある農業・農村のより一層の輝かしい未来を切り拓かれるものと確信しております。

どうか、皆様には、今後とも本県発展のため一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様にとって希望に満ちた幸多い年でありますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



年 頭 挨 拶

北陸農政局長 小 林 厚 司

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より農林水産行政の推進に御理解、御協力を賜り、とりわけ農業農村整備事業の推進に御尽力をいただいていることに厚く御礼申し上げます。

さて、平成27年10月5日の環太平洋パートナーシップ協定(T P P)の大筋合意を受け、世界のG D Pの約4割(3,100兆円)、人口8億人という巨大市場が創出されます。このことは、これまで様々なリスクを懸念して海外展開に踏み切れなかった農産品等も、オープンな世界へ果敢に踏み出す大きなチャンスをもたらすものであり、いま、我が国の農政は「農政新時代」とも言うべき新たなステージを迎えています。生産者の持つ可能性と潜在力をいかんなく発揮できる環境を整えることにより、我が国の豊かな食や中山間地域を含む美しく活力ある地域を次の世代に引き継いでいきたいと考えております。

夢と希望の持てる「農政新時代」を創造し、努力が報われる農林水産業を実現するために、未来の農林水産業・食料政策のイメージを明確にするとともに、生産者の努力では対応できない分野の環境を整えることとし、これにより、農林水産業の持つ様々な価値や魅力、日本の食の潜在力や安定供給の重要性などに対する理解や信頼を高め、「農政新時代」を日本の輝ける時代にしていきたいものです。

このため、具体的な対策として「攻めの農林水産業への転換(生産現場の体質強化)」及び「経営安定・安定供給のための備え(重要5品目関連)」を進めていくこととしています。

特に土地改良に関連しては、「攻めの農林水産業への転換」として「農地中間管理事業の重点実施区域等における農地の更なる大区画化・汎用化」や「水田の畑地化」等を進めるとともに、土地改良制度については、食料・農業・農村基本計画を踏まえ、農業・農村の構造変化を見極めつつ、その在り方について、農地や農業水利施設の管理、土地改良区の組織運営、土地改良事業の実施に際しての関係者のニーズ等について現状の把握と検証・検討を行うこととしています。

このうち「農地中間管理事業の重点実施区域等における農地の更なる大区画化・汎用化」の推進を図るためには、貴連合会が尽力されてきた土地改良事業に関する技術的な指導や換地業務が必要不可欠なことから、貴連合会や土地改良区等の皆様の役割と期待は益々大きくなっております。

貴連合会におかれましては、引き続き、そのことに向けた御尽力をお願いするとともに、土地改良区が「農政新時代」において本来の役割を果たしていけるよう、農業水利施設の計画的な補修・補強等に向けた技術的な指導や維持管理体制の再編整備など、土地改良区の組織運営基盤の強化への支援充実について、御配慮をお願いしたいと思っています。

北陸農政局としましても、農業者の不安な気持ちに寄り添いながら関連施策を実施していくこととしており、平成27年10月1日に地方組織(地域センター)を見直し配置した、現場と農政を結ぶ役割を担う各支局が、「地域農政のコンサルタント」として機動的に対応していくこととしています。また、北陸農業・農村の魅力探しに積極的に取り組み、その魅力を余すことなく発揮できるよう、お手伝いをしたいと思っています。

結びに、本年が皆様にとりまして良い年となり、また、富山県土地改良事業団体連合会の皆様にとって実り多い年となりますことを御祈念申し上げ、年頭の挨拶と致します。



新年のごあいさつ

富山県農林水産部長 須 沼 英 俊

明けましておめでとうございます。

輝かしい初春を迎え、富山県土地改良事業団体連合会、土地改良区等の皆様方に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

日頃から本県の農業農村整備をはじめ、農業行政の推進に格別のご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、本年度の県予算については、26年度補正予算を合わせた14ヶ月予算により、国の農業農村整備予算が大幅に削減される前の21年度当初予算と比較して98.4%の102億円を確保し、担い手の育成のための農地の大区画化等の整備や農業水利施設の長寿命化対策、農村地域の防災・減災対策等を推進しています。

農業者の高齢化や担い手不足、米価の低迷など農業・農村を取り巻く環境が厳しさを増す中、農業の競争力強化や国土強靱化の実現に向けて、「強い農業のための基盤づくり」を担う農業農村整備の計画的な推進が求められており、これまで、災害を未然に防ぐため池や用排水路等の整備に農家負担を求めないこととした中山間地域防災減災事業の創設や農地整備事業における農家負担軽減のための促進費の充実など農家負担の軽減に努めてまいりました。また、農業水利施設の維持管理費の軽減を図るため、農業用水を利用した小水力発電を現在の19箇所から28年度に28箇所程度とする目標を掲げ、本年度は、富山県土地改良事業団体連合会とも連携し、新規3箇所を含め11箇所の整備を推進するなど、整備の加速化に取り組んでいるところです。

こうしたなか、昨年10月に、T P P交渉が大筋合意となりましたが、これを踏まえた農業対策としては、意欲ある農林漁業者が安心して経営に取り組めるよう、経営安定に資する対策の充実を図るとともに、生産性・収益性の向上や高付加価値化などにより、体質強化を進め、農業の成長産業化を図ることが重要であると考えております。県では、これまでも、担い手への農地の集積・集約化の推進などによる農業生産の基盤づくりや富山米のブランド力向上などによる県産農産物の需要拡大、水田フル活用・園芸生産振興等による農業経営の高度化・複合化等に取り組むとともに、農業生産基盤の整備については、農地の大区画化や汎用化による収益性の向上などを図るため、農業農村整備事業に積極的に取り組んでまいりました。

今後とも、国が示した「総合的なT P P関連政策大綱」等に基づく国事業の積極的な活用を図りながら、必要な事業の充実や予算の確保に努めてまいります。

会員各位におかれましては、引き続き農業・農村の振興など本県農政の推進に、より一層のご尽力をいただきますとともに、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、土地改良関係団体の限りないご発展と皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



年頭のご挨拶

富山県農林水産部
農村整備課長 大橋 雅樹

明けましておめでとうございます。

水土里ネット富山と会員の皆様方には、穏やかな平成28年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様方には、日頃より、本県の農業農村整備の推進にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、県の平成27年度農業農村整備事業関係予算については、平成26年度2月補正予算11.9億円と平成27年度当初予算90.1億円（前年度比102.5%）を合わせた14ヶ月予算で102億円を確保し、事業を推進しています。

また、農業用水を利用した小水力発電については、農業水利施設の維持管理費の負担軽減につながることから、県としても積極的に推進しており、平成28年度までに28箇所程度の整備目標に向けて整備を加速化しています。

農業競争力強化を図るためには、担い手への農地の集積・集約化に向け、農地中間管理機構とも連携した農地の大区画化・汎用化を推進する必要があります。また、国土強靱化を図るためには、地震・豪雨等の自然災害の激甚化や基幹的な農業水利施設の老朽化への対策を講ずる必要があります。県としましては、今後とも、地域の基幹産業である農業や多面的機能を有する農村がしっかりと守られるよう国に強く働きかけるとともに、県独自の施策も積極的に展開し、意欲ある農業者が希望を持ち安心して取り組める農業の実現に努めてまいりたいと考えております。

T P Pの大筋合意や高齢化、担い手不足など、農業を取り巻く環境はより一層厳しくなっておりますが、こういう時代だからこそ、農家の声に応えるべく、皆様の経験と知恵が必要となっております。

皆様方におかれましても、本県の農業・農村を未来にしっかりと引き継いでいくため、今後とも一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様方の今後ますますのご健勝、ご多幸そしてご発展をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

富山県農林水産部
農村振興課長 飛 世 隆 一

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、ご家族とともに健やかに新年を迎えられたこととお喜び申しあげます。また、日頃から本県農業農村の振興に格別のご支援、ご協力をいただいておりますことに、心から御礼申しあげます。

さて、ご存じのとおり国において、「強い農業」と「美しく活力ある農村」の創出を目指した様々な改革が進められる中、平成26年度に創設された「日本型直接支払制度」は、平成27年4月1日には「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」が施行されたことにより法律に基づく制度となり、安定的に地域活動を支援する仕組みが整えられたところです。

このうち、「多面的機能支払制度」につきましては、新制度へ移行後、皆様方のご協力により取組み面積が増加し、取組率は全国第4位となっており、県としましては、さらに多くの地域において創意工夫を活かした地域活動が展開されるよう対応してまいります。

さらに、今年度から第4期対策がスタートした「中山間地域等直接支払制度」については、平成26年度までに、対象農用地面積の88%（全国第9位）で取り組まれるなど大きな効果を上げており、今後とも、これらの制度の活用により総合的支援を行い、中山間地域が持つ多面的機能の維持、増進に努めてまいります。

また、近年、都市と農村を人々が行き交う「田園回帰」の動きが生まれており、北陸新幹線開業の効果を最大限に活かし、グリーン・ツーリズムなどの都市農村交流を促進するとともに、今年度より農村振興課が所管することとなった6次産業化について、支援の強化を図るほか、耕作放棄地対策、鳥獣被害防止対策などを積極的に展開し、農業・農村の活性化を図ってまいります。

県では現在、中山間地域が活性化するよう目指すべき基本的方向や実現に向けた施策を示す「富山県中山間地域活性化指針」の見直しを進め、特に、豊かな地域資源を活用した魅力ある地域づくりに重点をおいて取り組むこととしていますが、今後とも、自然豊かで伝統と文化に恵まれた住みよい農村の形成をめざし、農業農村を取り巻く情勢の変化や多様な課題に対応しながら各種施策を総合的に着実に推進してまいりたいと考えておりますので、会員の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

おわりに、平成28年が明るく実り多い年でありますように、会員の皆様のご健勝と、富山県土地改良事業団体連合会のますますのご発展をご祈念申しあげまして、新年のごあいさつといたします。

平成27年度 県土連理事会の開催

去る7月7日、富山県土地改良会館内において平成27年度第1回理事会、10月28日には第2回理事会が開催されました。

はじめに河合常則会長より挨拶のあと、会長を議長として議事に入り、すべて原案どおり可決承認されました。

【第1回理事会】

・平成26年度事業報告及び一般会計収支決算について

【第2回理事会】

・平成27年度業務中間報告について
その他 平成28年度農業農村整備事業予算の動向について

水土里探訪ウォークin 桜ヶ池 の開催

- ・主 催：水土里探訪ウォーク実行委員会
(富山県、富山県土地改良事業団体連合会、砺波土地改良協議会ほか3協議会)
- ・と き：平成27年7月25日(土)
- ・と ころ：桜ヶ池(南砺市立野原東)
- ・参加人数：220名
- ・コ ー ス：→桜ヶ池クライミングセンター前広場→用水トンネル口→遊具広場→取水塔
→井口仁志銅像→カンテキ塚→自遊の森→又八清水→休憩所
→水芭蕉広場→導水トンネル出口→桜ヶ池神社→余水吐
→ゴール(桜ヶ池クライミングセンター前広場)の約5km

今回で24回目となる水土里探訪ウォークが、南砺市(旧城端町)の桜ヶ池湖畔で開催されました。開会式では、実行委員長である大橋雅樹富山県農村整備課長の開会宣言のあと、主催者を代表して運営委員長である岩田忠正 砺波土地改良協議会長(城端土地改良区理事長)が挨拶され、続いて地元南砺市の田中幹夫市長(代理大西建設部長)が歓迎のことばを述べられました。ラジオ体操の後、最高気温36℃の猛暑が予想される中を参加者は元気よくスタートしました。

コースの途中では、先人達の熱望の末に農業用のため池として完成した桜ヶ池の歴史や役割りの説明、旧陸軍が弾の着弾点を監視した監的塚(カンテキ塚)などの歴史的遺構を見学したりし、湖畔の自然に触れながらウォーキングを楽しみました。暑さの中、熱中症の心配もありましたが皆さん無事に到着し、ゴール地点では抽選で地元特産品等のプレゼントもあり、当選者はもちろん外れの方々も疲れを忘れ笑顔で帰路に就きました。



「元気とやま」むらづくり推進大会2015の開催

富山県主催による「元気とやま」むらづくり推進大会2015が、平成27年8月27日に富山国際会議場メインホールにおいて、農業及び土地改良関係者等約800人が出席して開催されました。県では農業・農村の振興と多面的機能の発揮を図るため、多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払制度、耕作放棄地対策や都市農山漁村交流を推進しており、これら取組の必要性や成果を県民の皆さんに広くお知らせするとともに、活動指導者の情報交換等を図るために開催されたものです。

石井隆一知事の挨拶のあと、来賓として雑賀幸哉北陸農政局長、横山栄県議会議長、河合常則富山県土地改良事業団体連合会会長の挨拶がありました。

引き続き今年度「農村振興・環境保全優良活動コンクール」知事賞受賞6団体に知事から賞状が贈られました。

その後、一般社団法人 モリビオ 森の暮らし研究所の代表理事 江尻美佐子氏と、同じく理事の江尻裕氏ご夫妻による「利賀の地域資源を守って、活かす！ 山の資源価値と村の活力をアップ！」と題した基調講演がありました。

続いて、一日市場の参加者からのPRと、事例

発表として受賞6団体から活動内容について発表があり、最後に五位集落の神庭あゆみ氏により「元気とやまむらづくり」に向けて総力を挙げて取り組むとの大会宣言が読み上げられました。

また、ホワイエではパネル展示、1階ギャラリーでは11団体の特産品等の販売コーナーが設けられ、一日市場として賑わいました。

優良活動受賞団体は、次の6団体です。◇五位集落(高岡市)◇中尾環境保全会(氷見市)◇福平開拓集落(黒部市)◇安川地区環境保全推進協議会(砺波市)◇利賀百姓塾(南砺市)◇塚越環境保全推進委員会(射水市)



第38回全国土地改良大会（青森大会）

平成27年10月15日、第38回全国土地改良大会が、「土地改良の路繋ぎ明日への確かな途拓く」をテーマに青森市の新青森県総合運動公園(マエダアリーナ)で、全国から土地改良関係者約3,500名が参加し盛大に開催されました。

式典は、開催県である水土里ネット青森の野上会長の挨拶で始まり、主催者を代表して全国水土里ネットの二階会長から挨拶、続いて三村青森県知事から歓迎の挨拶、伊東農林水産副大臣から祝辞がありました。その後、土地改良事業功績者表彰が行われ、農林水産大臣表彰6名をはじめ、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰45名が表彰されました。

続いて、室本農村振興局次長から「土地改良は国土づくり～青森の土地改良に見る国づくりの歴史」、三村青森県知事からは、「あおり発!! 環境公共の推進」と題しての基調講演、また、聞き手役として、全国水土里ネット会長会議顧問、進藤かねひこ氏の進行による基調報告(東日本大震災、その後の新たな芽生え)として、岩手県、宮城県、福島県の各水土里ネットから報告がありました。その後大会宣言を行い、最後に、次期開催県の石

川県が紹介され盛会裡に閉会しました。

(本県の受賞者)

・農村振興局長表彰

城端土地改良区 理事長 岩田忠正 氏



平成27年度 換地関係異議紛争処理対策検討会 (北陸ブロック)

換地関係異議紛争処理対策検討会(主催:全土連、開催県:新潟県土連)が平成27年10月29日～30日新潟市において本省・農政局・全土連・北陸4県の県・県土連の換地担当者27名が出席して開催されました。

挨拶の後、本省の桑津換地係長から「換地を取りまく状況について」と題して国における情勢などについて報告が行われました。引き続き富山県・石川県の換地関係異議紛争処理事例に基づくケース・スタディーが行われました。テーマは、「地元要望により畦畔法尻に設置した側溝の敷地に関し権利主張される事例」、「ほ場整備組合長が提出した一時利用地の指定に対する弁明書に対処した事例」について、活発な意見交換及び総括が行われました。翌30日は、福井県から「事

業不同意者による役員に対する不満を理由とした異議申立について」事例報告があり検討会が行われました。最後に、中央換地センターから「換地計画異議紛争処理対策検討会で検討した対処策の中間総括について」の報告が行われ全日程を終えました。



平成27年度換地技術者育成・確保連絡会議 (北陸・東海・近畿ブロック)

換地技術者の育成を目的とした平成27年度換地技術者育成・確保連絡会議(主催:全土連、開催県:石川県土連)が平成27年11月12日から13日石川県金沢市の金沢勤労者プラザにおいて、本省・農政局・全土連・北陸・東海・近畿の県・県土連の換地担当者55名が出席して開催されました。

挨拶の後、全国農地保有合理化協会の市村業務部長より「土地改良事業と農地中間管理機構

について」、本省の秋田課長補佐・吉田調査係長より「行政不服審査法施行令等の制定・国土調査法第19条5項の指定申請の推進等について」と題して講演が行われました。

翌13日は、「土地改良事業と農地中間管理機構分科会」、「土地改良換地判例分科会」に分かれて活発な意見交換が行われました。



全土連 浦山参与



本省 秋田課長補佐



全国農地保有合理化協会 市村業務部長



分科会

「平成27年 とやま水土里フォーラム」の開催

富山県と富山県土地改良事業団体連合会との主催による「平成27年とやま水土里フォーラム」が、平成27年11月18日(水)入善町民会館コスモホールにおいて、土地改良関係者、県・市町村等 約500人が参加して開催されました。

主催者を代表して、寺林敏副知事、河合常則県土連会長から開会の挨拶があり、続いて来賓の長田朋二農林水産省北陸農政局次長、五十嵐勉富山県議会副議長、梅津将敬入善副町長の祝辞がありました。

次に知事表彰があり、土地改良施設の維持管理や、多面的機能の発揮のための活動に取り組み、他の模範となる団体および個人に対して「とやま水土里賞」が授与されました。

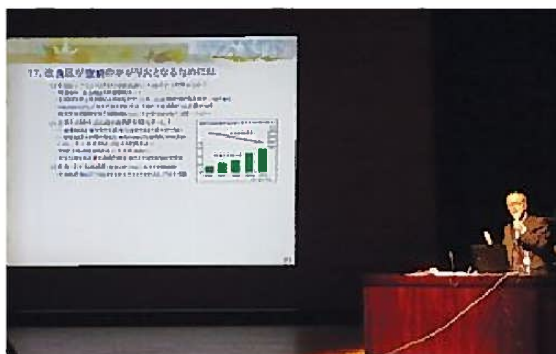
受賞されたのは、次の3団体と3個人の方々です。おめでとうございます。

- ・ 庄助川排水路施設維持管理協議会
(入善町)
- ・ 上黒用水組合(立山町)
- ・ 鞍川工区水利管理組合(氷見市)
- ・ 牧野 清隆 氏(朝日町)
- ・ 高木 良信 氏(富山市)
- ・ 二口 朝二 氏(南砺市)

また、受賞者の内、庄助川排水路施設維持管理協議会と鞍川工区水利管理組合からは事例発表が行われました。

つづいて、基調講演に入り、金子照美氏(田園社会イニシアティブ(株)代表取締役)が「土地改良区は風前のともし火か、それとも空前のかがり火か!？」と題し講演されました。

IT農業革命が巻き起ころうとしている今、農家や土地改良区は何をすれば良いのかなどの視点でお話があり、午前の部を終了しました。



一方、イベント広場では新川地域の農産加工グループ等による展示・販売や、屋外ではコンクリート製品等の展示があり、大勢の来場者で賑わいました。



午後の現地研修では、黒東合口用水右岸沈砂池、小水力発電浦山新地区（右岸連絡用水）、杉沢の沢スギ、黒部市地域観光ギャラリーを大型バス8台に分乗し研修を行い、全日程を終了しました。



北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 農業農村整備事業に関する要請

平成28年度の概算要求に向けて、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会（幹事県 富山県）では北陸四県の各土連の会長、事務責任者が、平成27年11月20日に北陸農政局長をはじめ、農政局幹部職員に対して、また、11月30日には東京都内にて、各県選出国會議員ならびに農林水産大臣ほか農林水産省の幹部職員また、財務大臣ほ

か財務省幹部職員に対して農業農村整備事業当初予算増額の要請を行いました。

特に伊東良孝農林水産副大臣、齋藤健農林水産副大臣および、岡田直樹財務副大臣にはそれぞれの副大臣室にて面会し、要請事項を直接伝えました。

**要請先 財務省および農林水産省政務三役、県選出国會議員、
財務省および農林水産省幹部職員と北陸農政局幹部職員**

要望事項

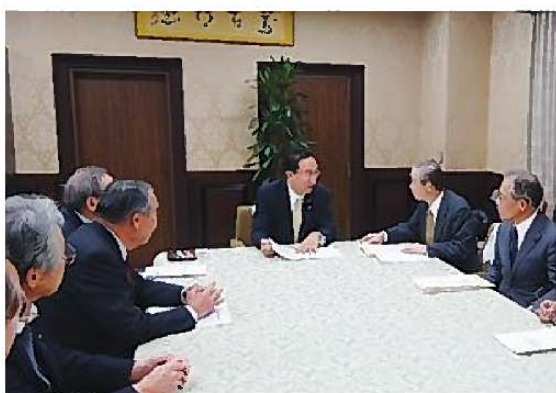
- 農業農村整備事業の着実な推進について
 - ・ 農業農村整備事業（公共）当初予算の確保
 - ・ 農山漁村地域整備交付金（公共）当初予算の確保
 - ・ 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金当初予算の確保

○ 農業・農村の再生に向けた支援

- ・「多面的機能支払」の予算確保
- ・「中山間地域直接支払」の予算確保
- ・「鳥獣被害防止総合対策交付金」の予算確保
- ・農地中間管理事業などによる農池集積の進展に伴う多様な担い手に対応する3条資格者の見直し

○ 農家の負担軽減に向けた支援

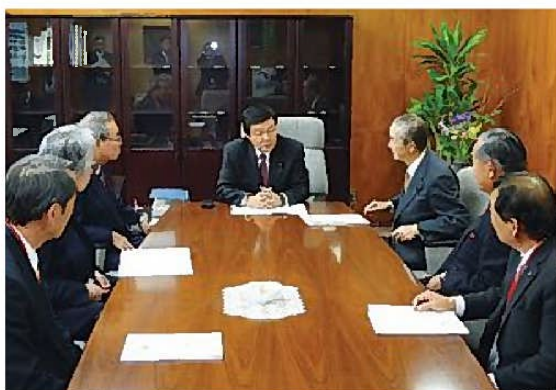
- ・農家の負担軽減対策（国庫補助率の嵩上げ）や土地改良施設管理、土地改良区運営支援に係る補助事業の充実と十分な予算確保
- ・電気料金の値上げにより、農業用水利施設等の運転経費高騰の影響を受ける土地改良区への支援
- ・再生可能エネルギーを活用した小水力等発電施設整備にかかる補助制度の継続と安定した「固定価格買取制度」の運用継続



岡田直樹財務副大臣へ



齋藤健農林水産副大臣へ



伊東良孝農林水産副大臣



末松農村振興局長へ



室本農村振興局次長へ



平成27年度富山県建設優良工事(土地改良部門)の表彰

富山県が建設技術の向上と建設工事の適正な施工を行い農業農村整備事業の健全な発展を期するため、毎年実施している県内優良工事の平成27年度「知事賞」並びに「農林水産部長賞」の表彰式が、平成27年11月30日富山県庁において工事関

係者を招き開催されました。

また、各農林振興センターの表彰式は、新川管内(12月4日)、富山管内(12月3日)、高岡管内(12月2日)、砺波管内(12月7日)で、それぞれ開催されました。

【知事賞】

受注者	分野	工事名	工事場所
脩河内組 伊藤 政博	農地整備	ほ場整備舟川新地区第9工区ほ場整備工事	朝日町舟川新
三久建設(株) 西川 宝三	農村地域防災減災	ため池等整備島尾地区島尾大池堤体改修工事	氷見市島尾
北陸ハイウェイ建設(株) 山本 吉弘	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸二期地区苗加用水路第1工区工事	砺波市鷹栖

【農林水産部長賞】

受注者	分野	工事名	工事場所
藤田建設 藤田 直嗣	農地整備	ほ場整備森田地区H号用水路その2工事	朝日町森田
(株)新川マリン 森田 唯志	農地整備	土地改良総合整備若栗北部地区若栗31号用水路ほか1路線その2工事	黒部市若栗
(株)伊原組 伊原 宗明	水利整備	基幹水利施設針原地区針原用水路第3工区工事	富山市新庄町
北尾工業(有) 北尾 知大	農村総合整備	中山間総合整備富山広域地区八尾工区4-17水路第4工区工事	富山市八尾町東松瀬
清水工業(株) 清水 良成	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸一期地区新又口調整池その3工事	高岡市戸出竹
雄基工業(株) 野崎 俊雄	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸一期地区新又口用水路第17工区工事	高岡市戸出竹
勢田建設(株) 勢田 栄治	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸二期地区苗加排水路第10工区工事	小矢部市下後減
安達建設(株) 安達 正彦	農村総合整備	中山間総合整備となみ・なんと山麓地区南砺工区水路整備第8工区工事	南砺市蓑谷
庄川興業(株) 池田 亘	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸二期地区苗加用水路第8工区工事	砺波市鷹栖
(株)宮木建設 宮木 一夫	水利整備	基幹水利施設庄西1期地区上若林口用水路第5工区工事	砺波市中野

〔新川農林振興センター所長賞〕

賞区分	受注者	工事名	工事場所
県営 最優秀賞	(有)稲垣重機	ほ場整備 窪田地区 第3工区ほ場整備工事	朝日町窪田
良賞	大平建設工業(株)	土地改良総合整備 滑川東部2期地区 大林用水5号線ほか工事	滑川市大林
団体営 優秀賞	村井鉄工所	前沢無田地区水路整備工事(その3)	黒部市前沢
良賞	大久保建工	県単独農業農村整備事業東城地区用水路付帯工事	魚津市東城

〔富山農林振興センター所長賞〕

賞区分	受注者	工事名	工事場所
県営 最優秀賞	共栄建設工業(株)	中山間総合整備 富山広域地区 山田工区6-5水路ほか工事	富山市山田中村ほか
優秀賞	(株)北山組	地すべり対策 八尾地区 室牧上野堰堤その2工事	富山市八尾町細瀧
団体営 優秀賞	三正建設(株)	農業基盤整備促進事業 三田地区 上用水支線工事その2工事	富山市八尾町三田
良賞	広井建材運輸(株)	県単独農業農村整備事業 藤木地区 日俣用水路改良工事	富山市藤木
良賞	碓井建設(株)	土地改良施設維持管理適正化事業 郷柿沢中川排水路工事	上市町郷柿沢

〔高岡農林振興センター所長賞〕

賞区分	受注者	工事名	工事場所
県営 最優秀賞	西川工業(株)	地すべり対策 氷見3期地区 老谷山田Aブロック土止工事	氷見市老谷
優秀賞	(株)今村組	土地総 金屋本江地区 水路第6工区工事	小矢部市金屋本江
団体営 優秀賞	松島工業(株)	基盤整備促進 吉住地区 大井川第6工区工事	高岡市戸出吉住
良賞	(株)大谷組	県単独農業農村整備 八講田地区 81号用水路改修工事	小矢部市八講田
良賞	塩谷工務店	県単独農業農村整備 下麻生仲町地区 水辺環境整備工事	高岡市下麻生仲町

〔砺波農林振興センター所長賞〕

賞区分	受注者	工事名	工事場所
県営 最優秀賞	北砺組・長谷川建設 経常建設共同企業体	基幹水利施設 芹谷野地区 芹谷野用水路補修第2工区工事	砺波市増山
優秀賞	立野原建設(株)	地すべり対策 福光地区 上小二又堰堤工第6工区工事	南砺市小二又
団体営 優秀賞	(株)土居建設	県単独農業農村整備事業 岩木中宮谷地区 ため池洪水吐整備工事	南砺市岩木
良賞	宮野建設(株)	県単独農業農村整備事業(地域営農確立促進事業) 芹谷法面復旧工事	砺波市芹谷

井田川水系土地改良区 合併予備契約調印式

(井田川沿岸土地改良区、保内土地改良区、野積土地改良区、八尾町卯花土地改良区、八尾南部土地改良区の5土地改良区が1つに)

旧八尾町地域では、平成4年より土地改良区の統合検討会を組織して検討を重ねて来ましたが、統合に対する認識の相違もあって地域全体の合意には至りませんでした。

このため、平成21年11月に、統合に対する認識を共有する井田川沿岸、保内、野積、八尾町卯花、八尾南部の5つの土地改良区で八尾農村環境改善センター内に合同事務所を開設し、土地改良区間の連携の強化と相互の信頼関係の醸成に努めてきました。

近年の土地改良区に対する環境の変化に対応し、土地改良区の経営基盤の強化を図り土地改良事業を適正かつ円滑に行うための土地改良区の統合を期して、平成26年5月に、富山県、富山市、富山県土地改良事業団体連合会との連携のもと、5土地改良区による「井田川水系土地改良区統合整備推進協議会」を設立し、合併協議を重ねてきました。

この度合意がなされ、平成27年7月6日に富山市八尾ゆめの森中山間地域活性化施設多目的ホールにおいて、関係5土地改良区、富山市、

県富山農林振興センター等の関係者約50名が出席して合併予備契約調印式が行われました。

調印式は、柳田 勲 井田川水系土地改良区統合整備推進協議会会長の開催挨拶、経過報告、合併予備契約書の確認の後、5土地改良区理事長(若林 博之 井田川沿岸土地改良区理事長、柳田 勲 保内土地改良区理事長、谷井 正・野積土地改良区理事長、清水 雅彦 八尾町卯花土地改良区理事長、西田 秀夫 八尾南部土地改良区理事長)並びに立会人の 森 雅志 富山市長、島田 俊弘 富山県富山農林振興センター所長が合併予備契約書に署名捺印されました。

続いて、森 富山市長、島田 県富山農林振興センター所長、宮本 光明 富山県議会議員、石田 博信富山県土地改良事業団体連合会専務理事の来賓祝辞があり、閉式となりました。

今後は、平成28年2月の合併認可を目標に、新しい「井田川水系土地改良区」として、受益面積1,296.7ha、組合員数1,781名となる予定です。

土地改良区名 (合併前)	受益面積 (ha)	組合員数 (名)
井田川沿岸土地改良区	573.7	687
保内土地改良区	409.0	545
野積土地改良区	121.0	204
八尾町卯花土地改良区	71.0	141
八尾南部土地改良区	122.0	204



土地改良区の組織強化を目指し、各種研修会を開催

(1) 水土里ネット複式簿記研修会

- 1) 催 日 平成27年8月7日
- 2) 会 場 呉羽ハイツ
- 3) 参加者 89名（土地改良区役職員等）
- 4) 趣 旨 土地改良区を対象に、複式簿記会計への理解を深めて頂くことで、複式簿記会計の導入促進を図ることを目的として、開催しました。
- 5) 研修議題
 - (1) 複式簿記に対する県内の取組状況など
富山県 農村整備課 課長補佐 竹田 和裕 氏
 - (2) 会計制度、複式簿記の基本について
全国水土里ネット中央換地センター 参与 田村 栄二 氏
 - (3) 検査基準、会計基準、会計細則例について
北陸農政局 土地改良管理課 土地改良指導官 山崎 祐治 氏
 - (4) 土地改良区会計基準に基づく、会計の実際について
全国水土里ネット複式簿記指導グループ 茂木 吉成 氏
 - (5) 土地改良区会計基準と特殊実務
全国水土里ネット中央換地センター 参与 田村 栄二 氏
 - (6) 資産評価と減価償却の演習
全国水土里ネット 複式簿記指導グループ 茂木 吉成 氏



(2) 平成27年度 技術力向上事業 技術研修

平成27年9月30日富山県土地改良会館において、農業農村整備事業の円滑な実施と土地改良区の役職員等の技術力向上に資することを目的として、技術力向上事業（水土総合強化推進事業）技術研修会を開催しました。土地改良区・市町村・県関係者ら89名が参加し、土地改良区の適正な運営を目指した事務や体制について、また、工事の発注や管理に関わる適正な事務および工事の安全管理に関わる内容について研修を行いました。

土地改良区事務に関連し、制度改善に向けた国の検討状況や、複式簿記導入の推進も含め、社会情勢の変化に対応した事務体制の整備等について説明があり、工事発注に関しては、今年度から富山県版として整備された新たなガイドラインの運用について、安全管理では、発注者側として留意すべき点および実際の事故事例を踏まえた管理のポイントなどについて講義を受けました。

- ・土地改良区事務について ～土地改良区の適正な運営～
富山県 農林水産部 農村整備課 課長補佐 竹田 和裕 氏
- ・工事に関わる適正な事務について
富山県 農林水産部 農村整備課 技術管理係 副係長 村井 和一 氏
- ・工事現場における安全について
富山県 出納局 検査室 主幹 坪坂 耕吉 氏



(3)ため池監視・管理体制強化 技術研修会(ため池緊急防災体制整備促進事業)

平成27年度より、ため池における不測の事態に備えるため、監視・管理に必要な技術の習得を目的とした技術研修会を開催しています。

対象として、ため池の防災減災について北陸農政局より講師を招いて開催しました。今回第2回を下記のとおり開催しました。また、第3回は平成28年2月に開催する予定です。

第1回は、平成27年8月11日に県・市町村を

- 1) 日 時 平成27年11月25日 (水) PM1:30～
- 2) 場 所 (株)富山県総合情報センター1Fセミナー室
- 3) 参加者 ため池管理者、関係土地改良区、市・町、県土連、富山県 約80名
- 4) 内 容 主催：富山県農村整備課 事務局：富山県土連

内 容	講 師
○ため池の保全管理体制整備について ・体制整備の目的、基本事項 ・管理組織の体制整備	農林水産省北陸農政局防災課 高 村 特殊防災係長 富山県農村整備課水利防災係 嘉 藤 主任
○ため池に対する減災管理対策について ・農村地域防災減災対策における今日の課題 ・ため池の管理、点検と貯水位予測による減災管理 ・ため池における決壊時浸水域想定と近年の被災事例	農研機構農村工学研究所 鈴 木 防災研究調整役 吉 迫 主任研究員 (統括) 正 田 主任研究員



※研修会では、ため池管理者から活発な意見・要望がありました

式典

(1)小川用水発電所起工式

7月27日、朝日町土地改良区（理事長 鹿熊正一）が地域用水環境整備事業で実施する「小川用水発電所」の安全祈願祭と起工式が、朝日町山崎地内の発電所建設予定地で行政関係者や土地改良区関係者など約60人が出席して行われました。

小川用水発電所は農業用水路から取水し小水

力発電を行うもので、最大出力190キロワット、年間発電量は166万キロワット時余を見込んでいます。これは一般家庭約550世帯分に相当し、売電収入は朝日町土地改良区が管理する土地改良施設の維持管理費に充てることとしており、農家負担の軽減が期待されています。



(2)黒谷発電所起工式

8月4日、魚津市土地改良区が地域用水環境整備事業で実施する「黒谷発電所」の起工式と安全祈願祭が、魚津市黒谷地内で行政関係者や土地改良区関係者など約40人が出席して行われました。

北田 徳安 魚津市土地改良区理事長から挨拶があり、安全祈願祭では北田 徳安 理事長と石田 博信 富山県土地改良事業団体連合会専務理事が鎌入れし、出席者が玉串をささげました。

発電所は片貝第1発電所の放水を利用し、約7メートルの落差を活用します。最大出力410

キロワットで、総事業費は9億9400万円。来年10月の運転開始を目指しています。



(3)舟倉用水通水200年記念例大祭及び式典

8月11日、富山市坂本（大沢野）の鞍谷諏訪神社において、舟倉用水の通水200年記念式典が催され、船嶽土地改良区の関係者約60人が出席し、船嶽地区の農業の発展に寄与した用水の節目を祝いました。

式典に先立ち、記念例大祭が行われました。式典では岡崎 俊彦 船嶽土地改良区理事長が式辞で「祖先が守ってきた緑あふれる船嶽台地を子々孫々に引き継ぐため、努力したい」と述べられ、続いて、宮腰 光寛 衆院議員、野上 浩太郎 参院議員から祝辞がありました。



(4) 布施川用水発電所起工式

8月18日、黒部川左岸土地改良区が地域用水環境整備事業で実施する「布施川用水発電所」の安全祈願祭と起工式が、黒部市釈迦堂地内で行政関係者や土地改良区関係者など約40人が出席して行われました。

安全祈願祭では神事があり、荻野 幸和 黒部川左岸土地改良区理事長と大森 裕一 富山県土地改良事業団体連合会指導監が鎌入れし、出席者が玉串をささげました。

起工式では、荻野 幸和 理事長が挨拶され、堀内 康男 黒部市長、横山 栄 富山県議会議長が祝辞を述べられました。

発電所上流の布施川に設置されている笕破頭

首工右岸取水口から取水した農業用水を利用し、約28メートルの落差を活用した発電所です。最大出力258キロワットで、総事業費は3億3400万円。来年10月の運転開始を目指しています。



(5) 芹谷野発電所起工式

8月24日、庄東用水土地改良区が地域用水環境整備事業で実施する「芹谷野発電所」の起工式と安全祈願祭が、射水市串田新地内で行政関係者や土地改良区関係者など約50人が出席して行われました。

川合 昭夫 庄東用水土地改良区理事長から挨拶があり、安全祈願祭では川合 昭夫 理事長と大森 裕一 富山県土地改良事業団体連合会指導監が鎌入れし、出席者が玉串をささげました。

発電所は芹谷野用水路を利用し、約23メートルの落差を活用します。最大出力89キロワット

で、総事業費は3億6000万円。来年9月の運転開始を目指しています。



(6) 浦山新発電所(仮称)起工式

9月25日、入善土地改良区が地域用水環境整備事業で実施する「浦山新発電所(仮称)」の起工式と安全祈願祭を、入善町浦山新地内で行政関係者や土地改良区関係者など約50人が出席して行われました。

上田 英俊 入善土地改良区理事長の挨拶があり、安全祈願祭では上田 英俊 理事長が鎌入れし、出席者が玉串をささげました。

発電所は一級河川黒部川の愛本堰堤より取水している黒東合口用水から分水する右岸連絡用水を利用し、約10メートルの落差を活用します。最大出力274キロワットで、総事業費は9億

9400万円。平成29年3月の運転開始を目指しています。



(7)常東合口幹線発電所起工式

10月29日、常東用水土地改良区が地域用水環境整備事業で実施する「常東合口幹線発電所」の起工式と安全祈願祭が、立山町三ツ塚新地内で行政関係者や土地改良区関係者など約60人が出席して行われました。

常東用水土地改良区 高平 公嗣 理事長が挨拶され、須沼 英俊 県農林水産部長、井口 三郎 北陸農政局西北陸土地改良区調査管理事務

所長、立山町 舟橋 貴之 町長が祝辞を述べられました。

事業では約1.3キロメートル上流で取水し、用水に並行して整備する水圧管で発電所に引水する。約20メートルの有効落差を生かして発電し、最大出力は528キロワットで、総事業費は11億3千万円。平成30年4月の運転開始を目指しています。



◆地域と環境を保全するマイクロ発電水車「すいでん君」◆

新たに開発した側方開放型オープンクロスフロー水車による発電システムとして特許を取得しました。

この発電水車は、富山県土地改良事業団体連合会、株式会社エステック、富山県立大学、石川県立大学の4者が共同で開発したものです。朝日町大家庄の農業排水路に設置し、性能を実証しています。

併せて特許を出願中のところ、平成27年7月31日付で特許が認められました。

特許権者 富山県土地改良事業団体連合会
株式会社エステック
富山県立大学
石川県立大学

特許第5785930号

主な経緯

平成24年3月30日	発電設備設置、発電試験開始
平成24年7月18日	再生可能エネルギー発電設備認定
平成24年7月25日	発電開始（単独運転）
平成24年9月28日	運用開始（系統連系）
平成27年7月31日	特許取得



発電事業者：朝日町土地改良区
流量・落差：0.8m³/s・1.2m
最大出力：5kW

側方開放型オープンクロスフロー水車「すいでん君」の特徴

- 水路の落差工を利用した上掛けタイプで、農業用の水路に適しています。
- 除塵設備が不要です。大量かつ多様なゴミに対応でき、用水、排水を問わず使用できます。3年余の運用期間中にゴミが水車に掛かったことは一切ありません。
- 水車と発電機をユニット化し、設置工事と維持管理のコストを低減しました。
- 水路内に水の流れを阻害するような構造物を設けていません。水流の勢いを無理なく抑えるため、落差工の減勢機能を補完する効果があります。
- 水中に空気を連動し攪拌するため、水の浄化に効果があります。



- 水量の変化による影響が少なく、比較的安定した発電性能があります。
- 農業の6次産業化と地域の活性化に役立つエネルギー源として適しています。

◆富山県農業用水小水力利用推進協議会◆

◆技術力向上地方研修事業の一環として、小水力発電導入に係る基礎的技術の取得、指導者育成を図ることを目的に全土連が主体で中央研修が実施され、当協議会から下記のとおり参加しました。

回数	月日	研修内容	参加人数	備考
第1回	H27. 9/29～ 9/30	複式簿記会計	10名	
第2回	H27. 10/21～10/23	導入～各種手続、現地研修	6名	
第3回	H27. 11/10～11/11	発電施設整備の計算手法	1名	

◆「発電施設見学会」を開催しましたので紹介します。

- 1) 日 時 平成27年10月27日（火）PM1：00～
- 2) 施設名
 - ・西番小水力発電所（事業主体：常西用水土地改良区、H27年5月運用開始）
 - ・片貝別又発電所（事業主体：北陸電力(株)、H28年5月運用開始予定）
 - ・小摺戸発電所（事業主体：富山県企業局、H27年4月運用開始）
- 3) 参加者 土地改良区等、富山県、市町村の小水力発電担当職員 約70名
- 4) 講 師
 - ・常西用水土地改良区 立花 事務局長、田中 維持管理課長
 - ・北陸電力(株) 田林 工事所長
 - ・富山県企業局 砂山 電気課主任ほか



【西番小水力発電所】



【小摺戸発電所】



【片貝別又発電所】



【片貝別又発電所】

◆非補助農業基盤整備資金のご案内◆

1. 非補助農業基盤整備資金とは

土地改良区等が国からの補助を受けないで、かんがい排水やほ場整備、客土などの事業に取り組み、農業生産基盤整備・保全の推進を図る場合、日本政策金融公庫等が農家負担の軽減を目的に、土地改良区等に対し低利で融資する資金です。国の補助対象でない県又は市町村単独による補助事業についても、融資の対象となります。

2. 対象となる事業種類・内容

かんがい排水、畑地かんがい、ほ場整備、暗渠排水、客土、農道、索道(軌道等運搬施設を含む)、畦畔整備、農地造成、防災・農地保全、農業集落排水(農村下水道)、発電施設。

維持管理計画書作成に係る調査費、土地改良区事務所の新增築、事務機器や複式簿記導入に係るシステム、車両など

3. 融資条件

●貸付対象者

土地改良区、土地改良区連合(事業主体となる場合に限る)、農業協同組合、農業協同組合連合会、農業を営む方、農業振興法人

●償還期間 25年以内(うち据置期間10年以内)

【農業農村整備資金利率】

区 分		H27.11.20現在
補 助 事 業	県 営	0.85 %
	団 体 営	0.70 %
非 補 助 事 業	一 般	0.70 %

〈お問い合わせ先〉

- ・富山県農林水産部農村整備課換地業務係 076-444-3375
- ・北陸農政局農村振興部土地改良管理課 076-263-2161 (代表)
- ・富山県土地改良事業団体連合会事業部管理指導課 076-424-3380

〈融資担当機関〉

- ・日本政策金融公庫富山支店 076-441-8411
- ・農林中央金庫富山支店 076-445-2508 (公庫受託課)

お 知 ら せ

今後の主な行事予定 (平成28年1月～)

月 日	会 議 と 行 事	場 所	参 加 対 象	備 考
1月26日	換地計画実務研修会	富山県総合情報センター	土地改良区	主催
2月5日	ため池監視・管理体制強化研修会及び災害復旧技術向上のための講習会	土地改良会館3階	県・土地改良区 ため池管理者	県
2月19日	小水力等発電導入技術力向上地方研修	土地改良会館3階	小水力協議会会員	主催
2月23日	富山県担い手育成ほ場整備研修会	砺波市文化会館 (多目的ホール)	土地改良区・ 営農関係者等	ほ研会
3月18日	本会 第58回通常総会	ホテルグランテラス富山	会員・来賓等	主催

(注) 予定であり、別途詳細案内等を確認のうえ参加ください。

平成27年度「とやま水土里賞（知事賞）」受賞者の紹介

■ 団体の部 ■

庄助川排水路施設維持管理協議会（入善町）



庄助川草刈り作業

上黒用水組合（立山町）



大雨後の枯葉等処理

鞍川工区水利管理組合（氷見市）



揚水機スクリーン点検

■ 個人の部 ■

牧野清隆氏（朝日町）



日常監理状況

高木良信氏（富山市婦中町）



減水のための水門操作

二口朝二氏（南砺市井波）



分水バルブ操作



みどり
水土里ネット富山
農村環境を保全する

農業農村整備事業等の調査・測量設計等業務に関する
ご相談は、下記までお問い合わせください。

富山県土地改良事業団体連合会

〒939-8214 富山市黒崎17番地
TEL076-424-3300 FAX076-424-3332
<http://www.tym-midori.net/tomidoren>

